

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103169
法人名	有限会社 幸心
事業所名	グループホームつばさ
所在地	松山市 姫原3丁目3-7
自己評価作成日	平成28年8月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>2階の利用者はみんなで一緒に何かするというのは難しく個別対応が主になってきます。車椅子の利用者も要望に答えて外出支援をしています。運営推進会議には地域から多くの方が参加され、地域行事には利用者も参加させてもらったり不断からいろんな面で気にかけてもらっています。家族の面会時間を決めてないので、自由な時間で来て頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「行きたい所」や「したい事」ができるよう、希望を聞きながら外出支援している。プロ野球の巨人軍の大ファンの方には、坊っちゃんスタジアムの巨人戦を楽しめるよう支援した。テレビ観戦よりも何倍も応援し喜ばれたようだ。「姉の誕生日に花束をプレゼントしたい」という方には、買い物後、自宅まで届けに行き、一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援した。駄菓子屋のお菓子を一緒に卸屋まで買い付けに行くこともある。気候の良い頃には、季節の花を見に出かけたり、動物園やいちご狩り、外食等にも出かけている。気分を変えて時々公園でランチすることもある。事業所裏の公園への近道として、敷地内の通路を開放しており、日常的にあいさつ等して交流している。公園に来る子供が立ち寄ってくれた時には、利用者を中心となって楽しめるよう見守っている。家族に協力してもらって、仲の良い友人に遊びに来てもらうこともあり、見送り時、入居前の利用者の話を聞いたり、現在の様子を伝え、お付き合いが継続できるよう支援している。職員が同行して定期的にお墓参りできるよう支援しているケースがある。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つばさ

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 宮本 優香

評価完了日 28年 8月 15日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を介護記録やリビング等に掲示しスタッフ間で共有している	
			(外部評価) 開設時につくった理念、「焦らず 怒らず 諦めず」をパンフレットに明示し、居間に掲示して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) イベントには地域の方々に来て頂いている 秋にはお神輿や獅子舞も来て子供から大人までたくさんの地域の人が集まる場となっている	
			(外部評価) 地域の秋祭りをはじめ、町内会の活動に積極的に参加している。事業所の夏祭りやいも炊きには、地域の方や家族を招待し、準備から協力がある。数年前から土・日・祝日に開いている駄菓子屋は、利用者が店番をしており、子ども達と交流している。小学校の社会科見学や児童クラブとの交流も定期的に行っている。代表者は今後、「認知症カフェや介護相談所として、地域の方のお役に立てるようなことも検討していきたい」と話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症の説明会を行ったり、普段から利用者の様子を見てもらえるようにしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に家族の方や民生委員や町内役員に参加して頂き意見や提案などしてもらっている</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議は、町内会長や民生委員、地域の方、家族、利用者等が参加しており、毎回テーマを決めて意見交換を行っている。年3回は家族会と併せて、花見や夏祭り、いも炊きの行事を行っている。消防署立ち合いの避難訓練も会議の参加者とともに実施しており、町内会長からのすすめがきっかけで、法人代表者は防災士の資格を習得している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議やホームでのイベント開催時には、市役所・社協・包括センターにも参加の案内をして参加してもらい、実情を見てもらいながら意見を交わしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センターの担当者が、毎回、運営推進会議に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ユニット入口・玄関には鍵をかけず自由に入出入りできるようにしている。 特別な理由がない限り身体拘束はしていない</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人で公園まで散歩することが日課になっている方には、職員が「いってらっしゃい」と見送り、窓からそっと様子を見守りながら支援している。体動が激しくベッドからの転倒の危険があるため、家族の同意を得てベッド柵を付けていたケースがあるが、経過観察し、4ヶ月後に柵を外し、現在はベッド下に布団を敷いて対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会の題材として虐待の内容を理解し、常に意識している	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を題材として勉強会を行っている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 改定する時は家族会で報告・説明し、来られない家族には文章で報告している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している 面会時に世間話をする中で家族の意見を聞ける関係を築けるよう努めている (外部評価) 家族には、毎月ユニット毎の「つばさ新聞」と、毎週月曜日に更新するブログで、利用者の暮らしぶりを知らせている。緊急性のある要件や状態変化等については、電話で連絡して詳細に報告している。職員の入退職は、運営推進会議時に報告し、欠席者には議事録を送付している。各ユニットの入り口には、当日の出勤職員の顔写真と名前を掲示している。家族から苦情があった場合には、緊急ミーティングを行い、経過や今後の対応について検討し、次の運営推進会議時に報告をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティング等で職員の意見を聞く機会を作っている	
			(外部評価)	
			代表者は、各ユニットのリーダーを中心に職員の自由な発想やアイデアを採り入れて、日々の支援に取り組めるよう話している。長年勤務する職員もいるが、新しい職員の確保、定着や職員間の力量の差が課題になっている。	人材確保や育成は事業所の質にも関係することでもあり、課題解決に向けて、取り組みを具体的にすすめてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			キャリアパス制度を導入し向上心を高めている	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			内部の研修だけでなく、外部研修を受けるよう進めている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			他施設の行事にスタッフを同行させたり、ホームに招いたりしている	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用前調査を行い得た情報を職員に伝え利用者の状態を把握するようにしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前調査を行い家族の要望を聞いている 不安な事が少しでも軽減できるように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の要望を聞き、他サービスも視野に入れ社長が資料を準備し対応している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の意思を尊重し良い関係が築けるように努力している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) イベント等に参加してもらい、面会に来られた時などに一緒に過ごしてもらう時間を提供している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時間に決まりはなく、自由に訪問してもらっている (外部評価) 事業所裏の公園への近道として、敷地内の通路を開放しており、日常的にあいさつ等して交流している。公園に来る子供が立ち寄ってくれた時には、利用者が中心となって楽しめるよう見守っている。家族に協力してもらって、仲の良かった友人に遊びに来てもらうこともあり、見送り時、入居前の利用者の話を聞いたり、現在の様子を伝え、お付き合いが継続できるよう支援している。職員が同行し定期的にお墓参りできるよう支援しているケースがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者一人一人が孤立しないように、その都度会話したり他利用者と交流してもらっている
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	退所後も必要に応じて社長が相談に乗るなど対応している
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	利用者とは相性の良い職員が直接聞いたりして、定期的に職員全員で意見交換している
			(外部評価)	今年、新たに「つばさアセスメントシート」を作成し、利用者の意向の把握に取り組んでおり、介護認定更新時に見直す予定である。センター方式の私の姿と気持ちシートを採り入れているが、追記や見直しは滞っている。今後さらに、利用者の思いや意向を探る取り組みに力を入れてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	利用前に調査をして、調査票を閲覧できるようにしている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	アセスメントシート・モニタリングシートを活用し、日々の申し送りで把握するように努めている

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			職員一人一人が日々の利用者の様子を把握し、ミーティングで意見交換し、家族の要望も入れた介護計画を作成している	
			(外部評価)	
			家族には、来訪時や電話で希望や意見を聞き反映している。介護計画の書式には、新たに「家族の意見」欄を設けている。又、家族への計画内容説明時に意見があれば、採り入れて計画を作成している。	介護計画をケアの道しるべとするためにも、チームで共有できるような仕組みづくりが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の様子などを介護記録に記入しミーティング等で話し合っている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			面会に来れない家族の為に自宅へ本人を連れていったりと柔軟な支援で対応している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の小学生が授業の一環として、町探索で訪問してくれたり、児童クラブの子供達との交流し楽しんでいる 駄菓子屋の店番を通して近隣の親子連れとの交流もある	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医だけでなく本人・家族が希望する医療を受けられるように支援している	
			(外部評価) 月2回、協力医の往診がある。入居前からのかかりつけ医で診てもらっている方は、家族が受診に付き添って支援している。週2回、訪問看護師の訪問があり、利用者の健康管理を行ったり、職員の相談にのってくれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護ステーションと連携を取り医療面からアドバイスをもらっている	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 見舞いに行き本人の状態をみている 社長が病院側に早期退院できるように働きかけている	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に終末期ケアのアンケートや指針を説明している 重度化した場合にはこまめに話し合い事業所でできる事を精一杯させて頂いている 終末期ケアの利用者がいる時は運営推進会議で報告している	
			(外部評価) 入居時、家族に終末期の意向を聞いており、ほとんどの方が「最期までここで」と希望がある。この2年間で4名の方の看取りを支援しており、今年5月の運営推進会議時には、2Fのユニットリーダーが事業所の看取り支援について報告を行った。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習を受けている 勉強会の題材の1つとして職員で話し合っている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施している 災害時のマニュアルを作成し掲示している	
			(外部評価) 事業所で何かあった場合には、町内放送を流し、協力してもらえる体制がある。伊方原子力災害時には、大洲市のグループホームを受け入れることになっており、視察に行き、持ち出し物や移動手段の確保について話し合った。地域の防災訓練時には、利用者と参加し、ダンボールの簡易ベッド作りや煙体験、炊き出し等を体験したり、見学したりした。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し言葉かけするよう努めている 職員の様子を見て余裕がないようなら交代するなどしている	
			(外部評価) 職員は丁寧な言葉かけを心がけているが、方言やくだけた話し方の方が反応が良い方もおり、関係性や時と場合によって言葉かけを替えて対応している。プランターの野菜の世話や掃除機かけ、繕い物、料理等、利用者個々が得意なことが行えるように、職員は見守りながら支援している。利用者によっては、洗濯物を取り込む時間や台風後には庭の掃除を気にかけてくれる利用者があり、職員は、お礼を言っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が自ら思いを話すような雰囲気作りをし、声かけし話を聞くように努めている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 会話の中で「今日は何がしたい？」等声かけし、できるだけ実現している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の天候や季節に合わせて洋服を選んだり、利用者が恥ずかしくならないように身だしなみを整えている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) お米を研いだり、盛り付けなど手伝いを職員と会話しながら無理のない範囲でもらっている	
			(外部評価) 事業所の畑やプランターで野菜を育てており、食卓にのぼることもある。「本日の献立」は、食材のイラスト入りでホワイトボードに掲示しており、見て確認する方もいる。関係性を配慮して、テーブルの配置や席を決めている。職員は利用者の中に座り同じものを食べており、介助等を行っている。食後は、利用者数名で協力しながら皿洗いしたり、片付け、テーブル拭きを行っていた。調理や味見、盛り付けを行う方もおり、珍しい旬の食材が手に入ると、職員は利用者と一緒に調理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量のチェック表に記入し確認している 一人一人の状態を把握し刻み食・おかゆ等食べやすい形態にしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる利用者は見守り、できない利用者は介助している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し本人の様子などを見てトイレ誘導している	
			(外部評価) 日中はできる限りトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態によって排泄用品の必要性や適切性を話し合い、随時見直すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) おやつにヨーグルトを出し、水分補給を勧めている 排便のカウントをして牛乳を飲んでもらったりしている	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その日の利用者の体調に合わせて入浴してもらっている 毎日午後から入浴してもらっている、夕食後に入浴したい利用者にも対応している	
			(外部評価) 基本的に一日おきに入浴できるように支援している。利用者ごとに湯を入れ替えて支援しており、自分で湯温を調節する方もいる。希望により、毎日入る方や就寝前に入浴する方にも対応している。入浴を拒む利用者には、気の合う職員が誘ったり、声かけやタイミングを工夫して支援している。利用者の中には、洗髪は、入居前の習慣から、いきつけの美容院で行う方があり、月に一回出かけてカットや洗髪をもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室一人一人に合わせた温度・湿度調整を行い、臥床の体位など楽な姿勢であるように支援している	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員個々で薬の確認表を作成し理解している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人に負担にならない範囲で役割を見つけて、一緒に行うようにしている(食事作り・洗濯物たたみ・買い物など)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気分転換に散歩やドライブに行っている 家族が来られて一緒に外出することもある	
			(外部評価) 「行きたい所」や「したい事」ができるよう希望を聞きながら外出支援している。プロ野球の巨人軍の大ファンの方には、坊っちゃんスタジアムの巨人戦を楽しめるよう支援した。テレビ観戦よりも何倍も応援し喜ばれたようだ。「姉の誕生日に花束をプレゼントしたい」という方には、買い物後、自宅まで届けに行き、一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援した。駄菓子屋のお菓子を一緒に御屋まで買い付けに行くこともある。気候の良い頃には、季節の花を見に出かけたり、動物園やいちご狩り、外食等にも出かけている。気分を変えて時々公園でランチすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額ではあるが家族に許可をもらい自分のお金で買い物してもらっている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 以前は家族に電話するのが日課になっていた利用者がいたが今はいない 携帯電話で家族とやり取りしている利用者には使い方が分からなくなった時に対応している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>壁飾りで季節感を演出している トイレの表示を利用者目線にしている</p> <p>(外部評価)</p> <p>今夏は、ひょうたんを育て、伸びたツルが窓辺のグリーンカーテンとして日よけになった。廊下の本棚には、利用者の普段の暮らしや行事の様子の写真をアルバムにして並べており、来訪した家族や利用者が見ている。1Fユニットでは、うさぎを飼っており、利用者の癒しになっている。壁面には、職員手作りの大きな日めくりカレンダーが掛けてあり、今日の日付を確認して居室に戻り日記を書く方がいる。居間では、お手玉やおはじき、けん玉、コマ回し、手作りカルタをしたり、職員が紙芝居を読むこともある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>リビングの一角に畳を敷き冬には炬燵をだすなどしている 現在の利用者は居室で過ごされる方が多く、リビングに残っている利用者は重度の方が多く利用できていないのが残念</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所時になるべく使い慣れた家具を持ってきてもらうようお願いしている 生活の中で必要な物・不必要な物があるとその都度家族に相談している</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居前に使用していたじゅうたんやソファーセット、三面鏡等を持ち込みしつらえている居室があった。アイロンや冷蔵庫を置いて使用する方もいる。家族が本人と相談して、家具を入れ替えたり、季節ごとにカーテンを替えたりするところもある。仏壇や神棚を持ち込み、お供えや水を交換し、手を合わせる方もいる。水墨画が趣味の方は作品を額装して飾っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人の状態に合わせ、背の低い人・車椅子の方には低い位置に物を置くなど支援している</p>	